



**JPN Class**

Online school - 日本語で学ぼう

# 国語の学習

## 小学校

## 六年生

### 七月 第③週

森へ





## みなさんにお知らせ

1. 質問があったら、メールをください。すぐお返事します。
  2. 自分が書いた文章を見てもらいたいときはメールで送って  
くれば、直して送り返します。
- ❖ メールアドレスは、 [Akiko@JPNCClass.com](mailto:Akiko@JPNCClass.com) です。
  - ❖ 授業で使ったスライドはWebページ <http://JPNCClass.com> から  
印刷やダウンロードができます。



## お家の方へ

1. 授業で使う文章を印刷する際、お子さんのお手伝いをお願いします。
  2. ノートは特に規定はありませんが、漢字学習用と国語のノートの2冊を用意してあげてください。
  3. 質問や作文などの添削はメールで随時受け付けています。積極的に送るように、声掛けをお願いします。
- ❖ メールアドレスは、 [Akiko@JPNCClass.com](mailto:Akiko@JPNCClass.com) です。
  - ❖ 授業で使ったスライドはWebページ <http://JPNCClass.com> から印刷やダウンロードができます。

# 印刷の仕方

1. Webページ <http://JPNCClass.com> へ行きましょう。
2. YouTube授業をクリックしましょう。



JPNClassは、海外に暮らす子どもたちとご家族をサポートする目的で開設されました。子どもたちにオンラインでの国語などの授業を提供します。また、ご家族と海外での日本語教育や子育てについて共に考える講演会やセミナーを開催します。

授業は、オンライン授業（Zoom）、ビデオ（Youtube）を通して提供します。現在お住まいの地域に日本語補習校など日本語を学ぶ学校がない、行く時間がない、あるいは自分のペースで日本語の勉強を進めたいといった子どもたちに最適です。

詳しくは、オンライン授業、YouTube授業、講演会・セミナーのページをご覧ください。



学習を始める前に

① 授業で使う文章を印刷してください。



# 印刷の仕方

3. 小学6年の教科書をクリックしましょう。

 **JPN Class**  
Online school - 日本語で学ぼう

トップ [YouTube 授業](#) ▼ オンライン授業 講演会・セミナー 講師プロフィール お知らせ  
ご意見・連絡先

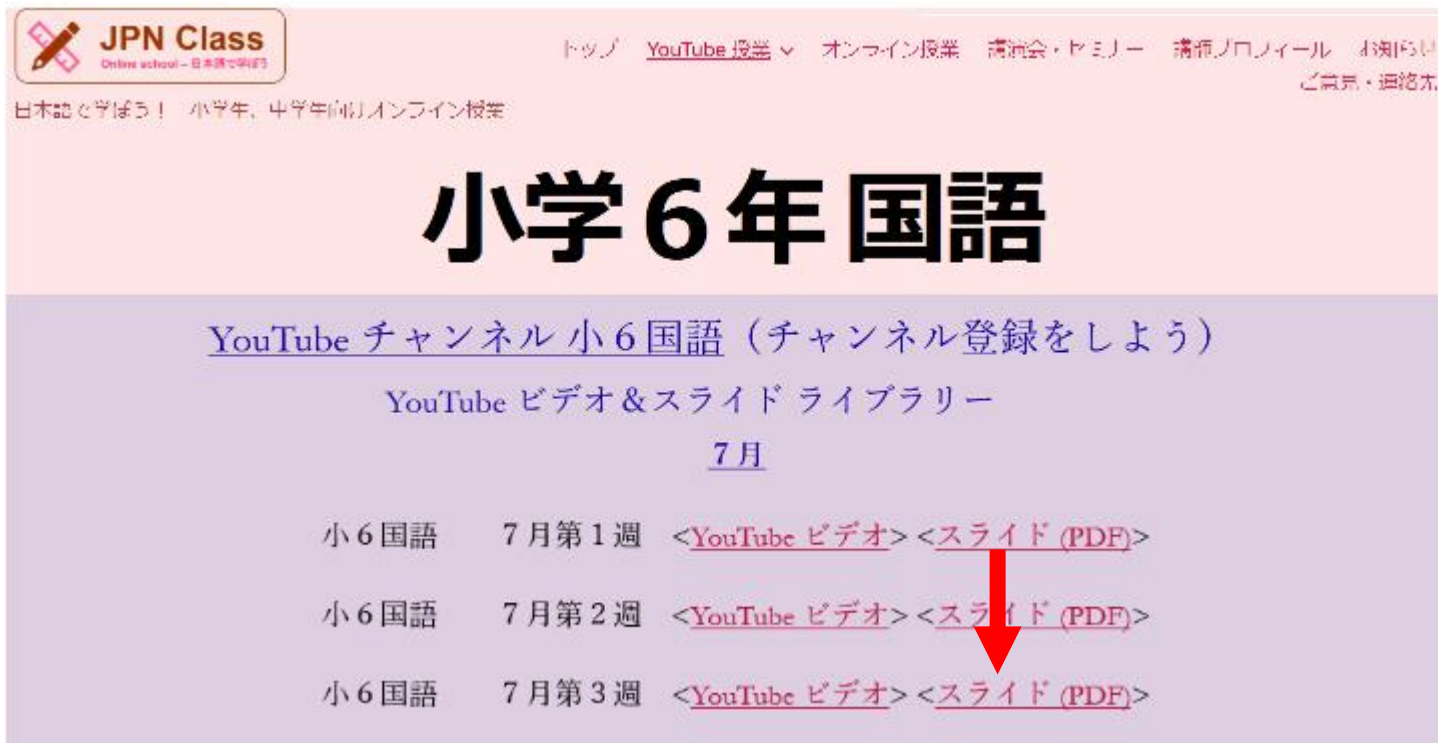
日本語で学ぼう！ 小学生、中学生向けオンライン授業

## YouTube 授業

<b>小学4年 国語</b>	<b>小学5年 国語</b>	<b>小学6年 国語</b>	<b>中学1年 国語</b>
<a href="#">YouTube チャンネル</a>	<a href="#">YouTube チャンネル</a>	<a href="#">YouTube チャンネル</a>	<a href="#">YouTube チャンネル</a>
<a href="#">YouTube ビデオ&amp;スライド</a>	<a href="#">YouTube ビデオ&amp;スライド</a>	<a href="#">YouTube ビデオ&amp;スライド</a>	<a href="#">YouTube ビデオ&amp;スライド</a>
			

# 印刷の仕方

4. 小6国語 7月第3週 <スライド (PDF)>をクリックしましょう。



JPN Class  
Online school - 日本語で学ぶ

トップ YouTube 授業 オンライン授業 講演会・セミナー 講師プロフィール お問い合わせ

日本語を学ぼう！ 小学生、中学生向けオンライン授業

## 小学6年国語

YouTube チャンネル小6国語 (チャンネル登録をしよう)

YouTube ビデオ&スライドライブラリー

7月

小6国語	7月第1週	<YouTube ビデオ>	<スライド (PDF)>
小6国語	7月第2週	<YouTube ビデオ>	<スライド (PDF)>
小6国語	7月第3週	<YouTube ビデオ>	<スライド (PDF)>

朝の海は、深いきりに包まれ、静まりかえっていました。聞こえるのは、カヤックのオールが、水を切る音だけです。少し、風が出てきました。白い太陽が、ぼうつと現れては、消えてゆきます。ゆっくりと、きりが動いているのです。オールを止めると、カヤックは、鏡のような水面をしばらくすべり、ミルク色の世界の中で、やがて動かなくなりました。きりの切れ間から、辺りを取り巻く山や森が、ぼんやり見えています。たくさんの島々の間を通り、いつの間にか深い入り江のおくまで来ていたのです。ここは、南アラスカからカナダにかけて広がる、原生林の世界です。

森へ

星野 道夫 文・写真



1

5.  がついているページを印刷しましょう。



## ②必ず用意してください

- ・国語のノートと漢字ノート
- ・筆記用具（赤ペン、赤えんぴつも必要）

## ③気をつけること

- ・大事だと思うところはノートに書いてください。

- ・「ビデオを止めてください。」と言われたら、ビデオを止めて、先生の指示にしたがってください。



- ・必要があるときは、ビデオを止めて、もう一度ビデオを見たりしてください。

## 先週の宿題

### 1. 漢字

漢字テストの復習をしましょう。特に、できなかったりまちがったりした漢字を中心に練習しましょう。

### 2. 音読

「森へ」を読みましょう。

### 3. 新聞記事を要約しましょう。

次のページに新聞記事「アイヌ民族 独自の文化」があります。

### 《例》

北海道には、「アイヌ」という民族が暮らしていました。弥生時代になっても、寒い北海道では稲作が行われず、縄文文化が続いていました。この「続縄文文化」を元に、アイヌ文化が成立しました。アイヌと和人は交流していましたが、明治時代には「同化政策」によって、アイヌの文化や風習は禁止されました。二〇一九年、「アイヌを先住民族」として認めた法律ができました。



# アイヌ民族 独自の文化



北海道には、古くから先住民「アイヌ」が暮らしていましたが。アイヌは本州の「和人」とは異なる文化や言語を持つ民族です。

本州では縄文時代が終わり、弥生時代（紀元前4世紀〜3世紀）に入ると稲作が始まりました。でも、寒い北海道で稲作は行われず、野山で狩り

言語、風習…禁止された時代も

をしたり、川で魚を取ったりする縄文文化が続きました。この「続縄文文化」を元に、12〜13世紀ごろに独自のアイヌ文化が成立したと考えられています。

アイヌと和人は交流しながら生活していましたが、江戸時代ごろから衝突が増えていきます。明治時代になると、政府の「同化政策」（日本人全員を和人の文化・習慣に統一する政策）によってアイヌの文化や風習は禁止され、伝統的な生活もできなくなりました。

「アイヌは先住民族だ」というアイヌの訴えが実を結んだのは2019年のことです。この年の5月、アイヌを「先住民族」と明記したアイヌ施策推進法（時事ワード6ページ）という法律が施行されました。

筆者といっしょに森を歩いているつもりで、「森へ」を読ん  
みましよう。いろいろな感覚を働かせて、どんな様子か想像しま  
しよう。

《見えるもの》

- ・ 白い太陽が、ぼうっと現れては、消え  
てゆきます。
- ・ ——ぼんやり見えています。

《聞こえるもの》

- ・ カヤツクのオールが、水を切る音だけ  
です。
- ・ ピロロロ。

《におい》

- ・ 土のにおい
- ・ 川のにおい
- ・ 木のにおい

《さわった感じ》

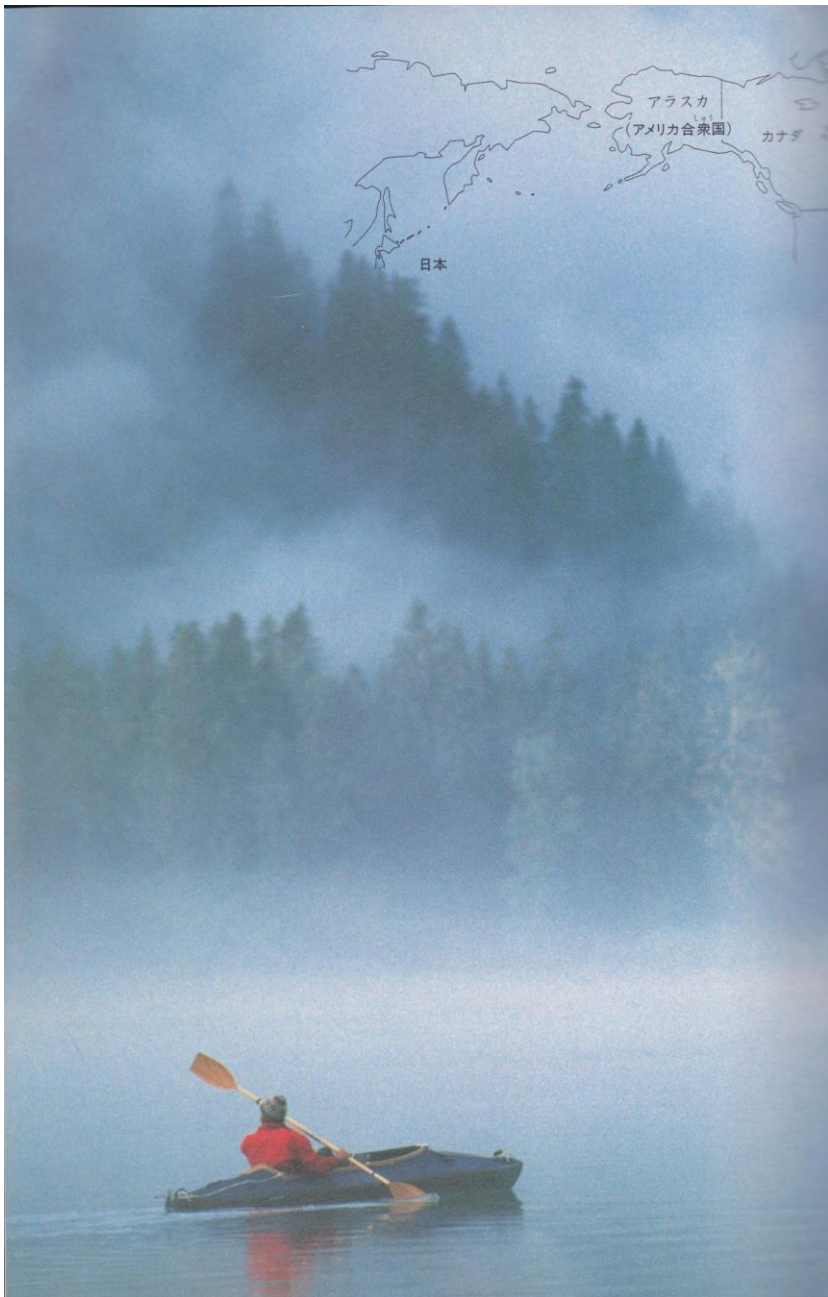
- ・ 手を水の中にいれ、——。
- ・ そっと幹をなでてみました。







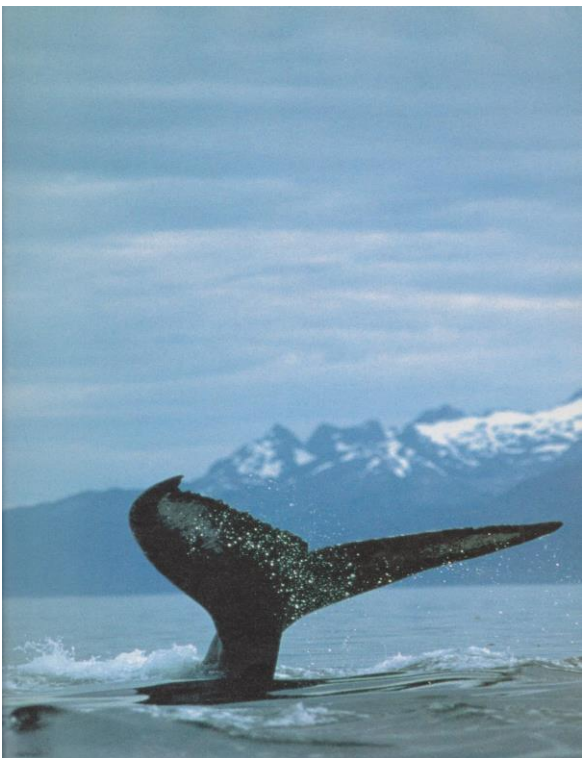
朝の海は、深いきりに包まれ、静まりかえってしまいました。聞こえるのは、カヤックのオールが、水を切る音だけです。少し、風が出てきました。白い太陽が、ぼうつと現れては、消えてゆきます。ゆっくりと、きりが動いているのです。オールを止めると、カヤックは、鏡のような水面をしぼらくすべり、ミルク色の世界の中で、やがて動かなくなりまりました。きりの切れ間から、辺りを取り巻く山や森が、ぼんやり見えています。たくさんの島々の間を通り、いつの間にか深い入り江のおくまで来ていたのです。ここは、南アラスカからカナダにかけて広がる、原生林の世界です。



カヤック…五、六メートルの小ぶね。元は、木や動物の骨で組み立てアザラシの皮をぬい付けたものであったが、今は化学素材で作られる。原生林…人が手を加えていない、自然なままの林。

じっとしていると、カヤックをこいでいるとき気づかなかった音が、  
少しづつ聞こえてきました。ピロロロロ……。ハクトウワシの、小鳥  
のようなさえずりです。が、辺りの森を見わたしても、姿が見えませ  
ん。ポチャン——と、一ぴきのサケが、海面から三十センチほど飛び  
上がりました。谷間から、川の音かたきの音か、かすかな水の音がわ  
たつてきます。きりは、絶えず形を変えながら、森の木々の間を、生  
き物のように伝わってきます。水面を流れるきりは、ぼくの顔や体を、  
しつとりとぬらしました。そのときです、不思議な声がかきりの中から  
聞こえてきたのは。シューツ、シューツ、シューツ……。ぼくは体を  
かたくして、だんだん近づいてくるその音を待ちました。とつぜん、  
きりの中からすうつと巨大な黒いかげが現れ、目の前を潮をふきなが  
ら通り過ぎていったのです。ザトウクジラ……。広い海原うなばらにいるはず  
のクジラが、どうしてこんな所にいるのだろう。やがて、クジラは尾お  
びれを高く上げ、ゆっくりときりの中に消えてゆきました。  
再び、カヤックをこぎ始めました。深い森の木々がおし寄せるはま  
べが、しだいに近づいてきました。

バサツ、バサツ……。ふいに、ハクトウワシが森の中か  
らまい上がり、頭上を飛び去  
ってゆきました。ぼくがこの  
森に近づいてくるのを、ハク  
トウワシはじっと見ていたの  
です。



ハクトウワシ…頭と尾が白い、大形のワシ。全長九十センチメートル、  
体重は六キログラムほど。北アメリカの水辺にすみ、サケなどの大き  
な魚をつかまえて食べる。  
ザトウクジラ…全長十五メートルほど。背中が黒く、腹が白い。

《新しい漢字》

すがた  
しお  
姿  
潮





やがて、カヤックが砂はまに乗り上げると、森は、おおいかぶさるようにせまっていました。見上げるような巨木や、その間にびっしりとおいしげる樹木が、ぼくがこの森に入ることをこぼんでいるようにした。

はなべに沿ってしばらく歩くと、だれかが遠ったように草のしげみが割れ、そのまま森の中に続いているのに気がつきました。いったいだれが来たのだらう。ここは、人の住む場所と遠くはなれた世界です。

巨木の間をぬけ、森に足をふみ入ると、辺りは、夕暮れのように暗くなりました。目が慣れてくると、森の姿が見え始めました。見わたすかぎりの木々が、いや、地面も岩も倒木も、びっしりと緑のコケにおおわれているのです。さまざまな地衣類が、枝から着物のように垂れ下がった木々は、そのまま歩きだしそうな気配でした。

ぼくが立っている地面は、かすかな道になり、森のおくへと続いています。土の上に残された大きな足あとを見るとき、急に胸がどきどきしてきました。そう、クマの道だったのです。森の中から、今にもクマがやって来そうな気がしました。

周りを見回しながら、しばらく考えました。

気持ちが悪く着くと、少し勇気が出てきました。ぼくはクマの道をたどり、森に入ってくることに決めました。

この森は、はるかな北に広がる氷河まで続いています。ずっと昔、ここは、厚い氷におおわれていました。最後の氷河期が終わり、地表が現れ、気の遠くなるような時間をかけて、森ができあがったのです。木々やコケ、そして岩や倒木までが、たがいにからみながら助け合い、森全体が、一つの生き物のように呼吸しているようでした。

地衣類・木の幹や岩の表面にうすく広がって付く植物。



## 《新しい漢字》

砂はま すな

樹林 ジュ

垂れ下がる た

胸 むね



森の木々が、じつとぼくを見つめているような気がしました。ときどき、気味の悪い大木を見かけました。まるで、足で立っているように根が生え、その間に大きな穴が空いているのです。あれは、いったい何なのだろう。

辺りをゆっくり見わたし、小さな音にも耳をそばだてて歩いていると、だんだん不思議な気持ちになってきました。いつの間にか、まるで、自分がクマの目になって、この森をながめているみたいなのです。心が静まるにつれて、森は、少しずつぼくにやさしくなってくるようでした。

「もしクマが反対からやって来たら、そつと道をゆずってやればいいのだ。」そんなことを考え始めていました。10

ふと気がつくと、道の真ん中に、大きな黒いかたまりが落ちていました。なんだろうと思って近づくと、それはクマの古いふんでした。

おどろいたことに、そのふんの中から、15  
白いキノコがたくさんびています。あんまりきれいなので、ぼくは地面に体をふせ、クマのふんにぐつと顔を近づけてみました。いつか北極圏けんのツンドラで見た、古い動物の骨の周りにさく花々を思い出しました。20  
厳しい自然では、わずかな栄養分もむだにはならないのです。



ツンドラ…北極海沿岸に広がる土地。寒さのために、一年じゅう地面がこおっている。

《新しい漢字》

穴 あな

骨 ほね

厳しい きびしい





クマの道は、しだいに分かれ道が多くなり、いつの間にか、森の中に消えていくようでした。ときどき、高いやぶをかき分けて進まなくてはなりません。そんなとき、倒木は、森にかかる橋のように歩きやすい道となりました。倒木の道には、ところどころに、アカリスがトウヒの実を食べたからが積まれています。動物たちも、この自然の道を利用しているのです。今度は、森のリスになったような気分で、倒木の上を歩きました。

水の音が聞こえてきました。しばらくすると、視界が開け、森の中を流れる川に出ました。岸に立つと、水の流れは、川底の岩の色なのか、黒くしずんで見えませんでした。

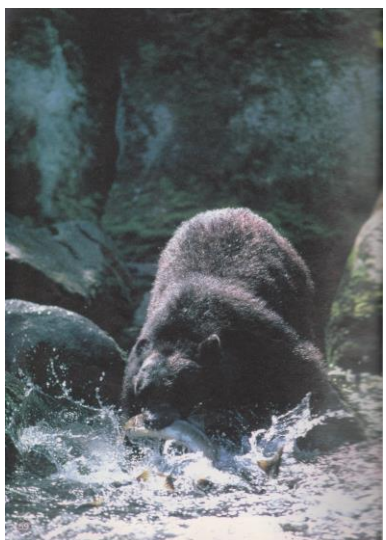
水を飲もうと水面に顔を近づけ、びっくりしてしまいました。川底の色だと思っただのは、産卵のために川を上るサケの大群だったのです。ぼくは、はだしになって川に入りました。静かに手<sup>15</sup>を水の中に入れ、や

つと一ぴきのサケをつかむと、ああ、なんと強い力をもっているのでしょうか。ばねのように身を大きく曲げながら、はじけるように、ぼくの手から飛びぬけてゆくのです。もうおもしろくてたまりません。ぼくは、ずぶぬれになりながら、何度も同じことをくり返しました。

ふつと前を見ると、対岸の岩の上から、クロクマの親子が、じっとぼくを見ているではないですか。ぼくは、あわてて岸を駆け上がりました。すると、なんてことでしょう。川の上流にも下流にも、いつの間にか、クマがあちこちに<sup>25</sup>いるのです。いま、この森の川は、サケを食べに来るクマの世界でした。見上げれば、子グマが木の上でねています。どうして今まで気がつかなかったのだろう。



20



10



すでに一生を終えたサケが、たくさん流れていきます。

「サケが森を作る。」

アラスカの森に生きる人たちの古いことわざです。産卵を終えて死んだ無数のサケが、上流から下流へと流されながら、森の自然に栄養をあたえてゆくからなのです。

ぼくは、川をそつとはなれ、再び森の中に入ってゆきました。

不思議な光景に出会いました。地面に横たわる古い倒木の上から、巨木が一列に並んでのびているのです。それは、きつとこんな物語があつたのでしょうか。

昔、一本のトウヒの木が年老いてたおれました。その木は死んでしまいました。その根が、まだ、たくさん栄養をもっていました。長い年月の間に、その幹の上に落ちた幸運なトウヒの種子たちがいました。そこに根を下ろした種子たちは、倒木の栄養をもらいながら、さらに気の遠くなるような時間の中で、ゆつくりと大木に生長していったのです。つまり、年老いて死んでしまった、倒木が新しい木々を育てたのです。それでやっと分かりました。森の中でときどき見かけた、根が足のように生えた不思議な姿の木のことです。その根の間に空いていた穴、それは、栄養をあたえつくして消えた倒木のあとだったのです。

目の前の倒木は、たくさんの大木の根にからまれ、今なお栄養をあたえ続けて20いるようです。が、いつかはすつかり消えてゆくのです。ぼくはこけむした倒木にすわり、**そつと幹をなでてみました。**

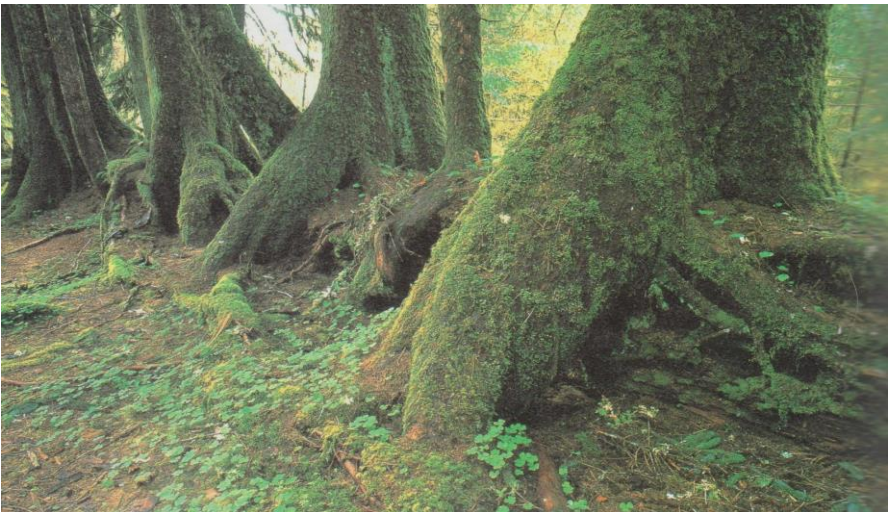
森のこわさは、すつかり消えていました。じつと見つめ、耳をすませば、森は25さまざまな物語を聞かせられるようでした。ぼくの目には見えないけれど、森はゆつくりと動いているのです。

星野道夫

一九五二〜一九九六。千葉県生まれ。

写真家。

「グリズリー」「アラスカたんけん記」などの作品がある。



筆者が出会った自然や命についてまとめましょう。

(1) 筆者は、自然の中でたくさん「命」あるものと出会います。筆者が森の中で出会った順番になるように( )に番号を入れましょう。

( ) まるで、足で立っているように根が生え、その間に大きな穴が空いている気味悪い大木。

( ) 見上げるような巨木や、様々な地衣類<sup>ちい</sup>。

( ) クマの古いふんの中からのびている白いキノコ。

( ) 産卵のために川を上るサケの大群。

( ) サケを食べるために川に集まってきたクロクマ。

(2) 新しい命を育てながら生きている森の姿を表現した部分を、次のようにまとめました。( )に合う言葉を□から選んで書きましょう。

① ( )は、白いキノコの栄養分としてむだにはならない。

② 産卵を終えて死んだ無数の( )は、上流から下流へと流されながら、森の自然に栄養をあたえていく。

③ 地面に横たわる古い( )は、その上に落ちた種子に栄養をあたえ、大木へと育てている。

ザトウクジラ

トウヒの木

コケ

クマのふん

クロクマ

サケ





筆者が出会った自然や命についてまとめましょう。

(1) 筆者は、自然の中でたくさん「命」あるものと出会います。筆者が森の中で出会った順番になるように( )に番号を入れましょう。

(2) まるで、足で立っているように根が生え、その間に大きな穴が空いている気味悪い大木。

(1) 見上げるような巨木や、様々な地衣類<sup>ちい</sup>。

(3) クマの古いふんの中からのびている白いキノコ。

(4) 産卵のために川を上るサケの大群。

(5) サケを食べるために川に集まってきたクロクマ。

(2) 新しい命を育てながら生きている森の姿を表現した部分を、次のようにまとめました。( )に合う言葉を□から選んで書きましょう。

① (クマのふん)は、白いキノコの栄養分としてむだにはならない。

② 産卵を終えて死んだ無数の(サケ)は、上流から下流へと流されながら、森の自然に栄養をあたえていく。

③ 地面に横たわる古い(トウヒの木)は、その上に落ちた種子に栄養をあたえ、大木へと育てている。

ザトウクジラ

トウヒの木

コケ

クマのふん

クロクマ

サケ



「森へ」を読んで、どんなことを考えましたか。次の中からテーマを一つ選んで、考えたことを書きましよう。

- ・ 「自然」について
- ・ 「命」について
- ・ 「時間」について
- ・ 「いきるということ」について
- ・ その他、自分でテーマを決めて

## 《作文の例》

### 森の中の命

石森 芳江

「森へ」を読んで一番考えたことは、森の中にもたくさん命があるということ。そしてそれらの命は関わり合っています。特に二つの命の関わり合いには、驚かされました。

まず、サケと森の関わり合い、つまり、サケの命が森を育てているということ。サケが川を上って卵を産むことは、有名な話ですが、産卵を終えて死んだサケが、「無数」と表現されるほどの数で、だから森の自然に栄養を与えることができるのだと思いました。アラスカのことわざ「サケが森を作る。」という表現には、サケという一匹では小さい命が、森という大きな自然の命と強い関わりを表していると感じました。

もう一つは、地面に横たわる古い木と、その上に一列に並ぶ巨木との関係です。老いて倒れた木に落ちた種子は、老いた木から栄養をもらって育つわけです。死んだ木の命を種子が受け継いでいくということだと思いました。死んだ木は最終的にはくちてなくなってしまうのですが、新しい木々にしつかりと自分の命をつないでいるのです。気の遠くなるような時間のなかでの命の受け渡しですが、自然というなかでくり広げられる命のドラマを感じました。



## 宿題

次回の授業までにやる勉強です。

**必ずやりましょう。**

### 1. 漢字

「森へ」に出てきた漢字の読み書きができるように、難しいと思う漢字をノートに書きましょう。

### 2. 音読

「森へ」を読みましょう。

### 3. テーマを選んで書きましょう。

自分が書いた文章を推敲へすいこうく（文章を読み、おかしなところや直したほうがいいところを直す）しましょう。



**JPN Class**

Online school - 日本語で学ぼう

# 国語の学習

## 小学校

## 六年生

## 年間学習表





8月 (夏休み=授業は3回)	7月 (夏休み=授業は3回)	6月	5月	4月		
		<p>討論会のをしよう 討論会の流れと進め 方を学習しよう。</p>			<p>1年間の学習を通し て 先生の話を聞き、学 習を進めよう。</p>	話す／聞く
	<p>森へ 「森へ」を読んで、 どんなことを考えた か、テーマを決めて 書こう。</p>	<p>ガイドブックを作る 読み手に必要な情報、 自分が伝えたいこと をふまえて、文章を 書こう。</p>	<p>生き物はつながりの 中に 文章全体を短くまと めよう。(要約しよ う。)</p>	<p>カレライス 主人公と似た経験に ついて書こう。</p>	<p>新聞記事 記事の要約をし、記 事に対する自分の意 見を書こう。</p>	書く
<p>本は友達 自分の好きな本を紹 介しよう。</p>	<p>森へ 情景を想像しながら 読んで、森のイメー ジを豊かに伝える効 果的な表現を味わお う。</p>	<p>短歌・俳句の世界 短歌や俳句を読んで、 リズムや言葉の美し さを感じよう。</p>	<p>生き物はつながりの 中に 筆者が文章を通して 一番言いたいことは 何か考えよう。</p>	<p>カレライス 主人公の気持ちを考 え、自分と重ね合わ せて読んでみよう。</p>	<p>新聞記事 記事の内容を読み取 ろう。</p>	読む
<p>船りんご 詩の言葉に現れた筆 者の気持ちを読み取 ろう。</p>			<p>暮らしの中の言葉 ことわざや漢字四字 の言葉の、意味や使 い方を理解しよう。</p>	<p>漢字の形と音・意味 漢字の音を表す部分、 意味を表す部分を知 り、漢字の組み立て を理解しよう。</p>	言葉	
<p>同じ訓を持つ漢字 同じ訓を持つ漢字そ れぞれの意味と使い 方を知ろう。</p>						

1月 (冬休み=授業は3回)	12月 (冬休み=授業は3回)	11月	10月	9月	
今、わたしは、ぼくは 自分の思いが伝わる ような表現を身に付 けよう。	自分の考えを発信し よう 自分の考えをイン ターネットを使って、 友だちに発信しよう。			みんなで生きる町 調べたことや考えた ことを分かりやすく 伝えよう。	話す／聞く
感動を言葉に 見たり感じたりした ことをもとに、心の つぶやきを言葉にし よう。	今、わたしは、ぼく は 構成を工夫して、意 図が明確に伝わる方 法を考えよう。	自分の考えを発信し よう 「平和」に関する資 料を通じて、自分の 考えを書こう。	イートハーヴの夢 宮沢賢治の考えにつ いて分かったこと、 思ったことを書こう。	みんなで生きる町 調べたことをもとに、 提案書を作ろう。	書く
	平和のとりでを築く 文の書き方の特徴に 気をつけて、筆者の 考えを読み取ろう。	イートハーヴの夢 宮沢賢治の考え方や 生き方を読み取ろう。	やまなし 独特な言葉や表現を 味わおう。情景を想 像しながら読んで、 作品の特徴を考えよ う。	みんなで生きる町 だれもが暮らしやす くするにはどうした らいいか考えよう。	読む
漢字クイズ 小学校で習った漢字 を、正しく理解して いるか確かめよう。	インターネットと学 習 インターネットを学 習に役立てるために、 注意することを確か めよう。	覚えておきたい言葉 教科や社会生活の中 で使われる言葉の意 味を理解しよう。	熟語の成り立ち 漢字二字・三字・四 字以上の熟語につい て理解を深めよう。	日本で使う文字 平仮名と片仮名の由 来を知ろう。ローマ 字とのかかわりを知 ろう。	言葉

	3月	2月	
			話す／聞く
	<p>今、君たちに伝えたいこと            筆者が伝えたいことをまとめ、俺に対する自分の考えを書こう。</p> <p>生きる            「生きる」の形をまねて、詩を創ってみよう。</p>	<p>わたしたちの言葉            いろいろなあいさつについてまとめてみよう。</p>	書く
	<p>今、君たちに伝えたいこと            筆者が経験をとおして子どもたちにつたえたいメッセージを読み取ろう。</p> <p>生きる            それぞれの連に注意しながら、作者の考える「生きる」を読み取ろう。</p>	<p>海の命            周りの人々とのかわりの中で成長していく主人公の姿を読み取ろう。登場人物の言動から生き方や考え方を読み取ろう。</p> <p>言葉の橋            詩を味わい、心を伝える言葉の働きについて筆者の考えを読みとろう。</p>	読む
<p>六年生の漢字            六年生で習った漢字の復習をしよう。</p>			言葉



# JPN Class

Online school – 日本語で学ぼう

# 国語の学習

## 小学校六年生

## 七月 第③週

「いいね」

「チャンネル登録」

してください！

また来週。

